



ほっとするね
緑の府中

第 51 号

指導室だより

編集・発行 府中市教育委員会学校教育部指導室

〒183-8703 府中市宮西町 2-24

電話 042-335-4063

「キャリア教育、職場体験

学習がもたらしたもの」

「第3回府中の教育を語る会」が開かれる

東京都では11月の第一土曜日を「東京都教育の日」とし、都民の教育への関心を高め、教育に関する取り組みを都民全体で推進し、その充実と発展を目指している。

府中市においても、「学校教育プラン21」に基づき、府中市の教育の日として市民の教育に対する関心を高め、子どもたちの教育について保護者、地域住民、学校、教育委員会が共に考える機会として「府中の教育を語る会」を開催している。

そこで「第3回府中の教育を語る会」が、11月3日（土）に府中市生涯学習センター講堂において大勢の市民、学校関係者が出席し、開催された。

今回は、テーマを「キャリア教育、職場体験学習がもたらしたものの」とし、始めにビデオ「職場体験レポート2007」を鑑賞し、職場体験の現状を知り、1部パネル討論、2部講演会が行われた。



◆パネル討論

テーマ「キャリア教育、職場体験学習がもたらしたもの」

◎パネリスト

○中学生代表

府中第二中2年 宮崎優太さん

府中第二中2年 鳥井彩夏さん
府中第二中2年 野口水香さん
○教員代表

府中第二中主幹 大石 雅彦氏
○職場体験受け入れ事業所代表
府中運送株式会社

代表取締役専務 遠藤 芳博氏
○コーディネイター
府中市教育委員会

指導主事 長井 満敏氏

◆「職場体験と関連づけながら、自己紹介をしてください」

遠藤 本の配達を主に行っている。府中第二中、六中の生徒を7名受け入れた。生徒たちには主に構内作業をしてもらった。

大石 事業所と信頼関係をどう作っていくかが課題となっている。昨年度は300人可能なリストを作ってお願いが、行かない所があった。今年度はお願いした所は必ず行くようにした。生徒の希望も生かしながら実施した。

宮崎 回転鮎屋のチェーン店に行った。わさびのついた状態で機械から出てくるのには驚いた。

鳥井 和太鼓をやっている。そして、生徒会の副会長もしている。職場体験では薬局へ行った。主に品出しや、商品の紹介作りの仕事をした。

野口 スーパーマーケットへ行った。なすやトマトにラップをかけてる作業や古い物を前に出し、新しい物を後ろに入れる先入れ、先出しという仕事を行った。

◆「職場体験で学んだことは？」

宮崎 鮎屋は生ものを扱うので衛生面で大変気を遣っていることが分かった。10段階に分かれて手洗いをしたり、カキを食べていないか聞かれたり、15分おきにアルコール消毒をしたり、残った物は次々に捨てていた。鳥井 レジをやっているときに「ありがとう」とか「急がなくていいよ」などの声を掛けられたのが嬉しかった。

野口 なすやトマトにラップを掛ける仕事をしていてうまくできなかったのが、うまく掛けられるようになったとき嬉しかった。また、品出しの時、商品を並べるとき入らなくなり、やり直したり苦労した。

◆「職場体験をして生徒はどう変容したか」

遠藤 ここに終わった生徒からの礼状があるが、時候の挨拶から始まっており、このような手紙は今まで書いたことがなかったのではないかと、社会との接点になったと思う。私たちの頃は、電話を掛けるにも大人の人が出るので丁寧な言葉で話したりしていたが、今は、メールでスト

レートにしていることが多く、きちんと挨拶をすることが、最近なくなってきている。会社では夜中にも配達している。返本を下ろす仕事をもらったが、夜中でも働いている人がいることが分かったと思う。体験の前と後では、社会との接点を通して今までとは違う世界を見たのではないか。

大石 職場体験の後、面談をしてみて受け答えがしっかりしてきた。自信をもって答えられるようになった。職場体験のメリットは、行動が変わることではなく、心を育てることに効果がある。多くのことを学んできた。挨拶、言葉遣い、人の気持ちを大切にしたい等々。そして、社会との接点がもてた。大人の苦勞が分かったと思う。

◆「中学生は自分自身の変化についてどんなことがあるか」
野口 今までスーパーで何気なく商品を手に取っていたが、商品にするとき、手作業でやることが多いことを知り、一生懸命に働いている人のお陰で買いやすくなっていることが分かった。鳥井 挨拶、言葉遣いが変わった。「とっさの挨拶」ができなかった。店長さんから挨拶の大切さを改めて教えて貰った。今は敬語を使って正しくできるようになった。

宮崎 回転鮪では作る人は手を休める暇もない。便利な生活が送れているのもこうした人がいるので成り立っており、感謝の気持ちをもちたいと思うようになった。

◆「受け入れ側では職場体験をどう思うか」

遠藤 社会との接点も、かつては大人が身近にいたが、今はないので、こういう事業を通して人工的に社会との接点を作ること意義がある。来た生徒だけでなく他の生徒にも声を掛けたいという大人にもこういうよい点がある。地域との接点をもつことに意義がある。

◆「職場体験を保護者はどう受け止めているか」

大石 家でもその日あったことを生き生きと話し、一緒に体験しているようだ。事業所に感謝している。中2で幼さが残っており心配だったが、保育所で職場体験したら、毎日こんなことがあったと話し、この子にはそういう適性があるのでは、と新しい発見があった。学校で学べないことを社会で学べ、保護者は前向きに捉えている。

◆「中学生は親とどんなことを話題にしたか」

宮崎 昼時は満席になるのでやりがいがある。お客さんが「おいしい」と言ってくれると嬉し

い、と話したら「家でも言ってほしい」と言われた。

鳥井 品出しでは、飲み物は古い物から先に出し、先出し先入れをしている。お客さんがぬるい物を取ったので、冷たい物に代えてあげたら「ありがとう」と言われてとても嬉しかった。そのことをメモに書いておいたら店長さんも褒めてくれた。親にも話したら親にも褒められ嬉しい一日になった。

野口 疲れて帰ったら、家の人が「お疲れ」と言ってくれて嬉しかった。今まで親に「お疲れ」と言ったことがなかった。これからは声を掛けようと思った。

◆「子どもの社会的自立のために大人はどうすべきか」

遠藤 社会との接点という話をしたが、大人として子どもの身近にいてやり、背中を見せる。職場体験についても先生が受け入れ先の事業所や地域の人と交流している姿を見せる、大人の生き様を見せることが大切である。

大石 自分に合った仕事をみつけれられるか、フリーター、ニートがマスコミ等で話題になっているが、なぜフリーターなのか、「自分探し」との答えがある。小・中学校から自立、見通しをもてる教育が必要である。中学生は反抗期にかけ、大人を批

判的に見たり、情報の氾濫により間違った価値観をもってしまいう危険がある。その中で職業体験をさせる意義は、働く大人の真剣な姿、親切にされる喜び、まっすぐに育つ効果がある。将来に見通しをもつことができる。生き方学習の核にしていきたい。

◆「学校生活で自信をもっていることは何か」

野口 指揮者になった時、練習を巡ってけんかをしたりしたが、声が枯れるほど練習をして優秀賞を取ったときには、がんばれば結果がついてくると思った。

鳥井 生徒会で毎日6時ぐらいまで会議をしたりしていやだなと思ったが、それをやり遂げた時の達成感はすごかった。

宮崎 サッカーをやっているが、ゴールを決めたり、いいプレーをして褒められ自信になった。

チームが勝ったときもみんな力を合わせて勝った、仲間で助け合ったという喜びがあった。

◆テーマにある「職業体験がもたらしたもの」とは何か。

遠藤 これから事業としてもっと定着していくと思うが、気をつけることは、受け入れ事業所との連絡など電話一本でお願いすることのないようにしていただきたい。地域の中に入ってほしい。それが生徒に見え、意義あるものになる。民間だけな

く行政機関に受け入れてもらったり、府中市だけでなく他地区へ出るのもよいのではないかな。満員電車に乗ることもよい経験になる。

大石 終わった生徒と面談して印象的だったことは、やりたいと思っ行った職場ではなかったが、それでも楽しかった。やりたい仕事だったら、どんなに楽しいのだろうと語っていた。仕事がうまくできて買物物の役に立って、園児が喜んでくれたという達成感が得られたということに意義がある。課題としては、職場との連携をとっていく必要がある。5日間になるとどのようにして事業所を確保していくか、職場ともしっかり話をしたいかなってほならない。

宮崎 来年の二年生には、職場体験では始めすごく緊張するのでも、「ありがとう」といった一言でもかけてもらえるとよい。

鳥井 この職場体験で学ぶことが大きかった。楽しかったので1週間になっても多分楽しいと思う。中学生は5日になっても平気だと思う。

野口 私の両親は、仕事を持っていて話すことが少なかったが、職場体験で得た達成感のことを話して、そのとき褒められて自信になった。みなさんも褒めてあげてください。

講演

「子ども時代に自信をもたせる教育の必要性」

弁護士 清水幹裕氏



私は、東京六大学野球や甲子園での高校野球の審判を長年してきており、先日の齋藤佑樹君が完封した早慶戦では私が主審を務めていた。この間たくさんの方々を見てきたが、その中から感じていることをお話ししたい。参考になればよい。

教育は、生徒と教師との関係で成り立つ。教師は自信をもち魅力的でなければならぬ。

甲子園でもいいチームを作ってくる監督は、はつらつとしている。そうした監督には共通点がある。一つは、明るい、潔い。失敗をしても許せる。違う考え

を受け入れる度量がある。もう一つは、選手が悪いことをしたらきちんと叱ることができる。叱るのは難しいが叱ることは大事である。叱るためには先生の努力も必要だ。私には記憶に残っていることがある。小学生の頃先生の家に遊びに行った。

先生は何でも知っていて神様だと思っていた。伺った時に先生は机に向かい本を読んでいた。私はびっくりした。何でも知っている先生が勉強している。「先生も勉強するのですか」と聞くと、「1時間教えるためには、5時間勉強しなければならぬ。教える者は、教わる者の何倍も勉強しなくてはならない」と答えた。先生という職業は、大変やりがいのある仕事である。愛情をもって叱れば子どもも言うことを聞くようになる。

テーマにある自信をもっている人とはについては、野球を通して多くの子どもを見てきた。力があるのに伸び悩んでいる子、力を十分発揮している子がいる。発揮している子には共通点がある。一つは、自分の失敗を素直に認める。エラー、三振、誰しもある。伸び悩んでいる子は言い訳をする。これでは上手にならない。練習不足だからと認めない。上手になれる子は、決して言い訳をしない。指導者に大

切なことは言い訳することに よって何を訴えたいのかを知り「言い訳をしても何にもならなかったね」と教える。言い訳しないことをどう教えるかが大切だ。次は、上手になれる子はよく練習をする。松井秀喜選手はよく練習をした。父親が「努力でできることが、才能である」と言っているくらいよく練習をする。自分は練習すれば絶対に負けな

い、それが自信となる。東大野球部には、毎年20人位入部してくる。そのうち高校で野球をやっていたのは、5人位。K君という後輩がいた。野球は東大に入ってから始めた。大変練習熱心だったが、試合に出てもエラーばかり。それでもめげずによく練習をした。3年の時、初めてヒットを打った。みんな喜んで、4年の秋には、3割を超え、ベストテンの7位に入るまでになった。K君を見て思うことは、練習をしないでうまくなるなんてことはない、世の中を甘く見ないということだ。やればやるだけのことがあるというふうに育ててほしい。

5年前、日経新聞で高校生を対象に意識調査をした。「自分はだめなことがある」「日本73%、米国48%、中国37%、「計画通りにやり遂げる自信がある」日38%、米86%、中74%、「誇りに思えることがない」日53%、米24%、中23%。いずれも2ヶ国と比べて差がある。日本人は謙虚だという国民性もあるが、高校生が自信を失っている。自信をもつには、精神的に強くなる必要があるが、その方法として人の前で失敗することがある。私は恥をかくことで貴重な経験をした。審判は100%失敗しないのが当たり前だが、失敗もある。やじられて「よし、次は頑張るぞ」という気になる。人間の本当の価値は、何か、人の前で失敗したときどのように立ち直れる努力をしていくかが人間の価値だと思う。それが本当に自信のある人ではないか。

私は、神宮、甲子園の審判で失敗をして人の心の痛みが分かった。審判3年目の時、完全なミスをした。「おい審判、野球が下手なくせに審判ぐらい上手にやれ!」とやじられた。笑った人にもやじった人と同じだけこたえた。それ以後細心の注意を払った。人の心の痛みが分かることも大切だ。それが自信のある子の一面でもある。

もう一つ感動したことは、広島商のグラウンドボーイ2人、M君とN君。本当は試合に出られなくて悔しい思いだったろうが、常に全速力で審判にボールを持ってきたりして、その健気な行為にスタンドから大きな拍手が来た。どんな仕事でも大事で、一生懸命やりなさいよというのがあの二人ぐらい一生懸命できるか自信がない。

最後は、沖縄水産と大阪桐蔭の決勝戦。13対8で大阪桐蔭が勝った。ゲーム終了の挨拶の時、沖縄水産の主将が「おめでとう!」と実に爽やかに言った。このような大勝負の後「こんなに爽やかに言えたものか」と思えるくらい爽やか態度だった。自分たちは力一杯戦ったという誇りが言わしめたのであろう。

自分のやったことに誇りがもてる、大人を感動させる子どもを一生懸命育てようではありませんか。それが本当に自信のある子だ。教員の皆さんには、そういう子をたくさん育ててほしい。日本を救うのは教育しかない。教師や保護者に期待したい。

職場体験を通して

地域の中で、

人間関係の大切さを知る

―府中市立府中第四中学校第2学年10組―

9月26日、府中第四中学校（丹代徹校長）第2学年10組の6人が府中市内のコンビニエンス・ストアにおいて職業体験を行った。

一 職場体験とは

この職場体験は、生徒が事業所などの職場で働くことを通じて、職場や仕事の実際について体験したり、働く人々と接したりする学習活動である。

望ましい勤労観、職業観の育成や、自己の将来に夢や希望を抱き、その実現を目指す意欲の高揚を図る教育は、これまでも行われてきたところであるが、より一層大切になってきている。

こうしたねらいのもと、府中市内の11の中学校では、2～5日間、それぞれの事業所の協力を得て、実施している体験活動である。



二 事業所の協力

今回、協力を得たコンビニエンス・ストアのオーナーは、「生徒たちが、こうした職場体験をすることによって、自分のもっている力を十分に発揮できるよい機会である。また、買い物に来る地域の人たちも生徒たちが頑張っている姿を見て、生徒たちの生きる力を育てるだ

通行人へビラを配り宣伝の仕事をする

けでなく地域の方にも力を与えている。こういう体験は生徒にとっても、地域にとってもとても大切なことである」という考えをもち、職場体験に大変理解を示し、通常の学級の生徒はもちろん、特別支援学級の生徒も積極的に受け入れてくれている。

今回は、府中第四中学校の校長を始め教員が何度も店と連絡を取り合ってきたが、そうした事業所と学校との緊密な連携が重要であると語る。

三 職場体験の実際

早速、6人はオーナーからビラ配り・清掃、品出しの仕事の説明され、グループごとに担当した。今回はやはり職場体験できていた府中第六中学校の通常の学級の生徒の支援も得ながら一緒に活動した。

◆ビラ配りの仕事

ビラ配りを担当した生徒たちは、店頭立ち、お店に来る人や通行人に一人ひとりビラを配っていた。

「ご苦勞様、頑張ってね」と温かい言葉をかけてくれる人もいて、そういうときには、生徒たちもこっと笑顔を見せていた。自分のしていることにやりがいや充実感をもつことができ



商品を陳列する仕事をする

る瞬間でもあった。

◆清掃の仕事

清掃を担当した生徒たちは、店内の清掃や店の周りのゴミの回収を3人で取り組んでいた。店の周辺を少し回っただけで、たくさんの空き缶や紙くずなどが回収された。

回収したゴミは、店頭にあるゴミ箱に空き缶など燃えないゴミと、紙などの燃えるゴミに分別していた。

◆品出しの仕事

品出しの仕事を担当した生徒たちは、商品を倉庫から出し、陳列棚へ並べる仕事を行っていたり、陳列棚



回収したゴミを分別する仕事をする

の商品の整理を行ったりした。

◆終礼

オーナーから「今日は、一生懸命に働いてくれてありがとう。店としても大変助かりました。慣れない仕事で苦勞したことと思います。今日働いた経験をこれから生活に生かして欲しいと思います。『あなたにはあなたでなければできないことがきっとあるはずです』という励ましの話があり、職場体験は終了となった。

◆生徒たちは、慣れない仕事に苦勞したり、大人の人と接することにより気を遣うことも多かっただろうが、やり遂げたという満足した表情で店を後にした。

府中市教育委員会研究協力校研究発表報告

「伝え合う・認め合う・高め合う」

高め合う

府中市立南町小学校

研究主任 吉成 純子

1 研究主題について

本校の児童の実態をふまえ、研究主題を「伝え合う・認め合う・高め合う」1聞く・話すの指導を通して」と定めた。

「話し上手は聞き上手」という言葉を研究の基本とし、「聞く・話す」の順序性を重視し、研究を進めてきた。研究主題については、具体的に、

第一段階の「伝え合う」は、自分の考えや思いを相手に適切に伝えること

第二段階の「認め合う」は、相手の考えや思いを理解し共感すること

第三段階の「高め合う」は、お互いの考えや思いを交流し、考えや思いを深めることと3つの段階を考えた。

2 南町小学校の授業での

取り組み

① 学習指導要領に沿って「聞く・話す」の基礎・基本を大切に授業への取り組みを行い、話型・聴型の練習、聞く・話す

時の態度の育成、話す順序や内容を考えさせるなどの取り組みを行った。

② 講師の栗岩英雄先生の指導のもと「対話」を取り入れた授業を行った。これは、南町小学校の取り組みの大きな特色となった。「対話」とは、二人が向かい合って話をしたり、話を聞いたりする方法である。

3 具体的な授業研究

低学年「すきなものおしえて」「どうぶつの赤ちゃん」「サンゴの海の生き物たち」「スイミー」

等接続詞の後の文章を考えさせることや、好きな場面を選んで発表すること、好きな場面の音読などにも対話を活用した。

中学年「モチモチの木」「すがたをかえる大豆」「伝え合う」ということ」「こんぎつね」等登場人物の気持ちの読み取りや説明文の小見出しづくりなどで



対話を利用し、考えを出し合ったり深め合ったりする授業を行った。

高学年「インタビュール名人になろう」「わらぐつの中の神様」「学級会を開こう」「平和のとりでを築く」「海の命」等で対話を活用し、単元の主題に迫る話し合いを行ったり、登場人物の気持ちになって文章を書いたりした。

これらの授業研究の結果、聞く話すの単元だけでなく、説明文の読み取りや文学作品の読み深めなどに対話を利用した授業を行うことができた。更に感想を書いたり、お話の続きを書く授業などでも対話をし、イメージをふくらませてから書く等の取り組みを行った。

4 校内研究2年間の取り組みの成果と課題

〔成果〕

① 「対話」を積み上げてきたことによる成果

一人一人が話すことや聞くことにしっかり向かい合うことができるようになってきた。繰り返し練習することが自信につながっている。

② 基本的な話型の定着

基本的な話型の練習、話す内容を組み立てる等の取り組みの結果、話すことに対する抵抗感は少なくなり、話す力を付けることができた。

③ 聞く姿勢・聞く力の育成

対話は、聞き手を育てる事が大切だと言うことが分かってきた。対話を通しよい聞き手を育てることに力を注ぎ、児童の聞く力を付けることができた。聞くことを重視しようとした南町小学校の考え方が裏付けされた。

④ 「対話」を利用した授業の広がり

「聞く・話す」の取り組みが「書く・読む」の授業にも生かされることが分かり、大きな成果になった。「対話」を利用した授業の広がりが全教科・領域の中でみられるようになった。

〔課題〕

① 「対話」についての課題
単元や課題の選択、課題の選

び方、授業の組み立て方などこれからも話し合いの必要がある。

② 学級環境づくり・言語環境づくりの課題

誰とでも気持ちよく話せる学級づくり・学習集団づくりの大切さ、言葉を豊かにすることや伝えたいことを自分の中で整理する力の必要性を再確認した。

③ 「発達段階と基本的な話型」についての課題

発達段階と話型について学校全体で共通理解し、系統的に指導していくことがこれからの必要である。

④ 「聞く・話す」の評価についての課題

「伝え合う」から「認め合う」「高め合う」児童に育てるために、「聞く・話す」力を評価する方法について、これからの研究を続けていきたい。



「すこやかで

たくましい子の育成」

食育に視点を当て研究に取り組む

― 幼児教育推進委員会 ―

幼児教育推進委員会（委員長 矢崎幼稚園 叶雅之園長）では、研究主題を「すこやかでたくましい子の育成」として、食育に視点を当て研究に取り組んでいる。

そこで、9月13日には、第1回目の研究保育が、小柳幼稚園において前田枝里教諭の指導のもとに行われた。

◆研究保育

研究保育では、本時のねらいを「いろいろな食べ物があることを知る」と設定した。

はじめに、「食べ物クイズ・これなあに」を行う。

まず、食べ物クイズの方法を説明し、カードを紹介して食べ物の名前を聞いたり、何の種類（野菜・肉・魚・果物）かを考えさせた。

次にゲームの進め方について二人組でカードを選び、どの仲



「わあ！いっぱいあるな！どのたべものをえらぼうかな」

仲間分けが終わって、最後は弁当づくり。栄養のバランスをよく考え、おかずを入れる作業をして終わった。

◆4歳児でも食べ物の名前や種類をよく理解していたのには、大変感心した。

◆研究協議会

午後3時から講師を招聘して研究協議会が府中市立教育センターにて行われた。

まず、委員長より「子どもがのびのびと一生懸命に取り組んでいて感心しました。子どもの健やかな成長を願い、食育に視点を当て研究に取り組んできています。子どもだけでなく、保護者にも視点を当て、幼稚園・家庭・教育委員会の連携のもとに幼児期の食育についての方向性を見い出していきたいと思います」との挨拶があった。

◆研究経過の報告

子どもたちの基本的生活習慣の乱れが問題になっているが、今年度は、特に食事について視点を当て研究に取り組むこととした。そこで教師を対象に意識

調査を行い、分析をして研究に生かしていく。また、2～4年保育の指導計画の作成に取り組んでいく。

◆協議会

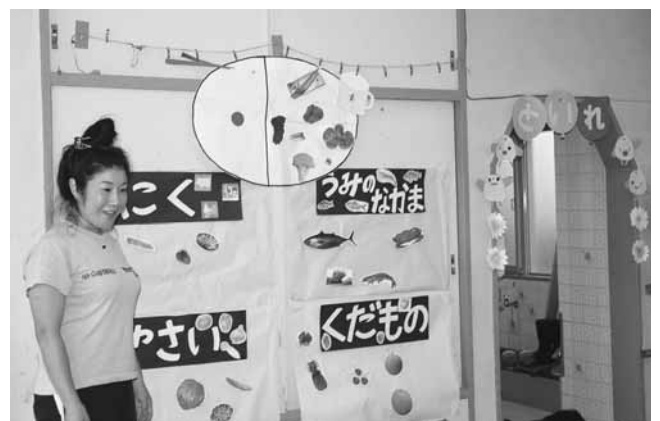
・カードがもう少し大きい方が見やすかった。
・食事にすることなので、家庭への働きかけが大切である。

・「肉」「海の仲間」「野菜」「果物」の四つの仲間に分けたが、そのくくり方が難しかった。

・食品の彩りがきれいだなとか、いろいろな色があるとかという感性の部分を求めてもよいのではないか。幼児期にふさわしい食教育があってもよい。

◆講評

○委員会の研究として、この一～二年、指導計画と指導案を作成し、計画的に取り組む、研究の深まりが感じられる。その上今年度は意識調査も行い、研究を進める上ではとても大切なことである。「食育について」、文科省では、東京都では、府中市ではどのような目標のもと、どのように指導するようになっていくのかをみることも大切である。その上で幼稚園でも幼児期にふさわしい食育ということ



「4つのなかまを入れてお弁当もできましたね」

研究をしていくとよい。

○食育の推進ということでは、指導計画を立てていくことが大切である。そのときに幼児への指導、保護者への指導とを分けていくとよい。また、4歳児、5歳児により発達段階での課題や特性も押さえていくとよい。

最後に委員長より「今回の実践記録をきちんとまとめておくことがこれからの研究のためにも大切です。他の園でも今日の反省をもとに指導計画の試案を考えていくとよいです。また、意識調査を分析して委員会としての考えを出していきたいと思っています」とまとめ、会を閉じた。

わが校の特色ある教育 NO. 17

地域と共に歩む 住吉小学校

府中市立住吉小学校

副校長 堀田 益男

本校は、明年で開校40周年を迎える。多摩川に臨み、長年にわたる住居者も多く、地域の方の学校に対する愛着や期待も大きい。1年生から6年生まで、いつも元氣な歌声を響かせている学校である。

1 コミュニケーション能力 の育成

現代の子どもたちの課題のひとつにコミュニケーション能力の不足があげられる。

本校は、この課題と真正面から向き合い、話すこと・聞くこ

と(国語科)の力の育成を目指し、府中市教育委員会の研究協力校として昨年度から研究に取り組み、11月20日には、その成果を研究発表会として学校関係者をはじめ保護者にも広く公開した。

コミュニケーションは、相手の話を聞く姿勢から始まる。全校朝会や運動会等の話の聞き方が、以前よりもよくなったとは内外ともに共通意見である。授業中に自分の考えをしっかりと発表できる姿も定着してきている。

2 多摩川を舞台とした 教育活動

本校では低学年の多摩川での稚魚放流活動、中学年の河原の石を使った造形活動、そして、高学年の江戸時代から伝わる漁法である投網の体験活動等、多摩川を舞台に様々な活動が行われている。

この自然や地域の方と触れあう活動を通して、子どもたち地域を愛する心が養われている。稚魚放流や投網体験は、多摩川漁業協同組合の皆様のご支援をいただき毎年実施している。

3 地域の教育力の活用

書写指導、昔の生活や戦争体験の聞き取り調査活動等、地域の人材をフルに活用しながら教育活動を進めている。

協力者の中には、歴代PTA会長の姿もあり、わが子が卒業しても、引き続き地域の子どもの成長に携わってくださる多くの方たちがおり、本校の教育活動の充実につながっている。この地域の子どもを愛する気持ち、自発的な児童の登下校の見守りなどにも発展し、子どももの安全確保の面でも尽力いた



4 読書活動の充実

子どもの情操教育の面からも読書の大切さが見直される昨今である。特に小学生低学年での本の読み聞かせが、生涯の読書生活の基礎ともなると言われている。

本校では、読書ボランティアやPTA有志により、年間を通し読み聞かせ活動が20年以上にもわたって行われている。また、並行してお話の会も年に3回実施されている。学校図書館で閲覧する本も、

積極的な新刊の紹介や市の図書館を活用して定期的な本を入れ替えるなど、司書教諭や補助員、そして、図書委員会の子どもたちとともに本を好きになる環境作りに努めている。

5 年3回の 道徳授業の公開

本校では、道徳の授業を学期に一度の割合で地域や保護者に公開している。アンケートなどから、「参観の回数を重ねる中で、道徳教育の意義がわ

かってきた」等、地域の方や保護者からも道徳授業への理解の深まりや期待を感じている。他にも、11月に行われる全校参加の持久走がある。週一度の体育集会に加え、毎日、中休みにも走る環境を用意し、子どもたちが、個々に目標をもって取り組んでいる。

以上、本校では、毎年実施する児童・保護者・地域の方の学校への評価結果を尊重しながら、知・徳・体のバランスを考慮し、子どもたちの健やかな成長を願う全教職員が一丸となり日々の教育活動を展開している。



12月研修会・委員会等予定	日	曜	研修会・委員会等	会 場	研 修 内 容 等
	3	月	生活指導主任会	教 育 セ ン タ ー	全体会（連絡・検討事項）小・中分科会
	4	火	初任者等研修会	府 中 第 二 中 学 校	初任者による研究授業と協議
	6	木	就学指導協議会	教 育 セ ン タ ー	第3回 A・B部会
	6	木	I C T活用推進委員会	白 糸 台 小 学 校	全体会 授業研究（小学校第二分科会）
	10	月	特別支援学級代表者会	教 育 セ ン タ ー	代表者会・分科会
	10	月	学校事務職員研修会	教 育 セ ン タ ー	講演「職場の危険箇所と労働安全衛生対策について」
	11	火	開かれた学校づくり協議会	教 育 セ ン タ ー	全体会 学校選択制の成果と課題
	12	水	地域安全対策協議会	教 育 セ ン タ ー	各校の取り組み状況・情報交換
	13	木	教務主任会	教 育 セ ン タ ー	全体会（連絡・検討事項）小・中分科会
	14	金	食教育推進委員会	教 育 セ ン タ ー	講演会「スポーツトレーナーから学ぶ食育」
	16	日	人権作文発表会	府 中 の 森 芸 術 劇 場	児童・生徒人権作文発表
	17	月	体力向上委員会	教 育 セ ン タ ー	全体会



平成19年も12月となり、各学校に於いては、一年間の教育活動の総括を行う準備を始める頃であり、活動の様々な成果を報告書等にまとめる機会も多い。

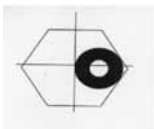
そこで、今回は、「自分の意図を正しく伝えること」について触れてみたいと思う。

まず、以下の文を読んでいたきたい。

「男は鏡の前に立ち、剃り残しはないかと丹念に顔をチェックし、ネクタイを締めた。朝食の席で新聞を丹念に読み、コーヒーを飲みながら、妻とストーブを買い換えるかどうかについて議論した。それから、何本かメールをチェックし、家を出た」

あなたはこの文から、どのような場面を想像するだろうか。「男の朝の支度風景」と答えるだろうか。そうであれば、次の問いはどうなるのか。①新聞の読んだ欄は？②どのようなネクタイを締めたのか。

自分の意図を 正しく伝える



- ③メールの内容は？④ストーブの買い換えをするのか？
答えは、こんな感じだろうか。
①経済面 ②派手なもの
③会議の日程 ④買い換える
ところが、場面設定を「失業者」としたらどうなるだろうか。おそらく、問いの答えは、
①求人欄 ②面接のために地味なもの ③面接の約束 ④しないとなるのではないかな。

続いて、次の説明を読んでいたきたい。

「大きめの正六角形を書きます。その正六角形の中心を通るように、縦と横に直線を引きます。この時、正六角形は、4つに分かれます。そして、正六角形の右半分に、丁度、いっばいになる円を書きます。その中に、もう一つ同心円を書きます。半径は、はじめの円の半分にします。最後に2つの同心円に囲まれた部分を黒く塗ります」

あなたは、この説明を読んだら、この図形を正確に作図できるだろうか。

この2つの例で何を申し上げたいかというと、「あなたの書いた文章は、その意図が相手に正確に伝わりますか」ということである。

この時期、学校では様々な研究の成果等を報告書としてまとめる作業に入と思う。研究論文は、資料・調査・実績などから得られたデータを基に、教育研究の成果を文章としてまとめ、公開する作業である。

したがって、研究内容の独自性や独創性とともに、文脈を正しく示し、文章表現が明快で、誰にでも分かりやすく表記されていることが求められる。いかに相手に自分たちの研究の意図が正確に伝えられる文章とするのか、腕の見せ所だと思ふ。

事務局の窓

ご存じですか

学務保健課の仕事

学務保健課長 田中 陽子

学務保健課は、学務事務、学校保健、学校給食、公私立幼稚園事務を担当しています。

【学務事務】学齢簿の編制、児童・生徒の就学事務、学級編制事務、学区の調整を行っており、平成19年度の児童・生徒数は、児童12666人で413学級、生徒5300人で159学級です。

また、最近いろいろな理由で指定校変更の申し出が多く、昨

年は指定校変更、区域外就学の承認基準を作成し、公平性を考慮するとともに基準を設けることで明確にいたしました。

【学校保健】児童・生徒の健康の維持、増進及び安全の確保は、学校教育が円滑に行われるための基本です。小学校22校、中学校11校すべての学校に学校保健委員会が設置され、今年度は学校保健の向上のため学校保健会が設置されました。

【学校給食】みんなで美味しい給食を食べることを通じて、奉仕や協調の精神、社会性を養い、地域の産業や文化に関心をもたせるなど「食育」を通じて生活習慣を培うことが期待されています。

こうした楽しく、美味しい学校給食は、当然のことながら安全であることが、前提条件となっており、衛生管理について万全を期するよう関係者一丸となった取り組みをしています。残さなく作った給食です。残ささないで食べるよう一言声をかけてください。

【幼稚園】府中市には、公立3園、私立17園の幼稚園があります。園児数は、公立317人、私立4130人と少子化といわれている中、府中市の子どもは微増です。子どもたちの元気な声は町を明るくしてくれます。